2019年3月期第2四半期
決算説明資料

2018年12月6日

コマニー株式会社（コード：7945）

目次

■2019年3月期第2四半期 連結業績の実績 P.1

2019年3月期第2四半期 実績 P.2
売上高・営業利益の増減分析 P.3
市場セグメント別　売上高 P.4
貸借対照表 P.5
キャッシュ・フロー P.6

■2019年3月期 連結業績の予想 P.7

パーティション市場の動向 P.8
連結業績予想 P.9
売上高・営業利益の増減要因 P.10

■重点施策の進捗 P.11

コマニーSDGs∞（メビウス）モデル P.12
重点施策①　東京エリアの営業活動 P.13
重点施策②　医療・福祉施設向け営業活動 P.14
重点施策③　市場開発機能の強化 P.15
重点施策④　海外事業展開 P.16
重点施策⑤　高付加価値商品 P.17
設備投資計画 P.18

■中期経営計画 P.19

中期経営計画 P.20

■トピックス P.21

トピックス①　SDGsビジネスアワード受賞 P.22
トピックス②　納入事例 P.23

■参考資料 P.24

社是・経営の理念 P.25
会社概要 P.26
沿革 P.27
事業内容 P.28
連結業績の推移（売上高・営業利益） P.29

2019年3月期
第2四半期
連結業績の実績

2019年3月期第2四半期　実績

（単位：百万円）

	18/3月期2Q		19/3月期2Q				
	実績	売上比	計画（期初）	実績	売上比	前期比	計画比
売上高	13,909	100.0%	15,000	15,481	100.0%	111.3%	103.2%
売上原価	8,386	60.3%	8,765	9,669	62.5%	115.3%	110.3%
売上総利益	5,523	39.7%	6,235	5,812	37.5%	105.2%	93.2%
販売管理費	5,374	38.6%	6,135	5,695	36.8%	106.0%	92.8%
営業利益	148	1.1%	100	116	0.7%	78.7%	116.0%
経常利益	124	0.9%	130	73	0.5%	58.9%	56.5%
親会社株主に帰属する四半期純利益	△ 13	－	20	67	0.4%	－	335.0%
1株当たり配当金	23円		25円	25円		108.7%	100.0%
設備投資額	260		326	277		106.5%	85.0%
減価償却費	467		487	466		99.8%	95.7%

2018年4月1日のコマニーエンジニアリング株式会社吸収合併に伴い、これまで販売費及び一般管理費として計上していた施工工事部門に係る費用を、2019年3月期第1四半期連結会計期間より売上原価として処理することとしました。この区分変更に合わせて、前期となる2018年3月期第2四半期連結累計期間の実績も修正しております。

■売上高

高付加価値商品の開発と販売を進めるとともに、営業教育によるお客様接点の強化に力を入れ、ニーズを的確にとらえた提案活動などにより増収。

■損益面

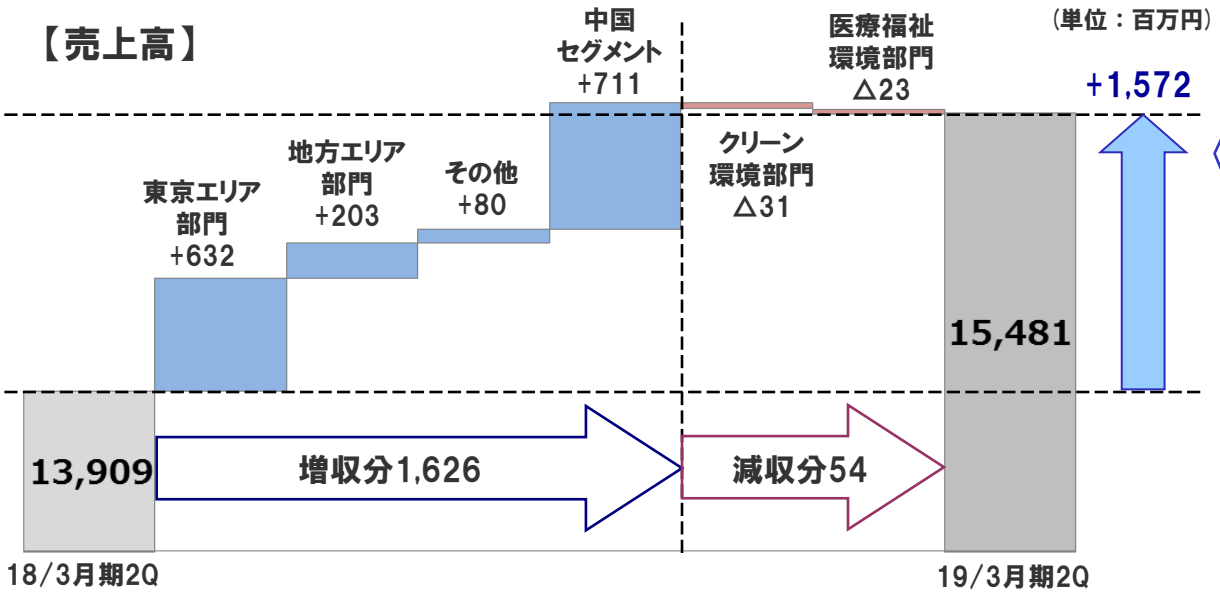
物件毎の収益管理を図るとともに、業務プロセスやモノづくりにおける合理化を進めた結果、売上総利益は増加したが、長期的視点での先行投資、営業教育の強化などにより営業利益は前期に対し減少。

■設備投資

【 2億77百万円の内訳】
- 生産設備　：　41百万円
- 情報ｼｽﾃﾑ　：　52百万円
- 子会社　：　8百万円
- その他　：　1億76百万円

売上高・営業利益の増減分析

【売上高】

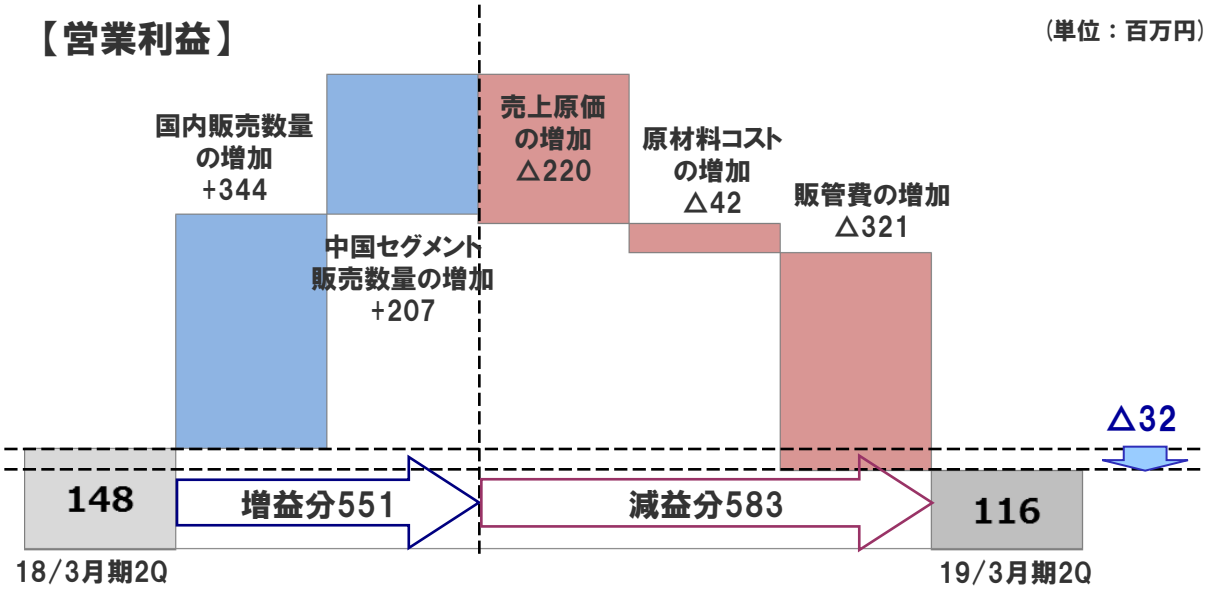


■売上高　154億81百万円
（15億72百万円の増収）

【増収要因】
・東京エリア部門ではオフィス移転やリニューアルが好調に推移
・中国セグメントでは前期までに受注した物件の工事完了の影響
⇒16億26百万円の増収

【減収要因】
・クリーン環境部門、医療福祉環境部門にて減収
⇒54百万円の減収

【営業利益】

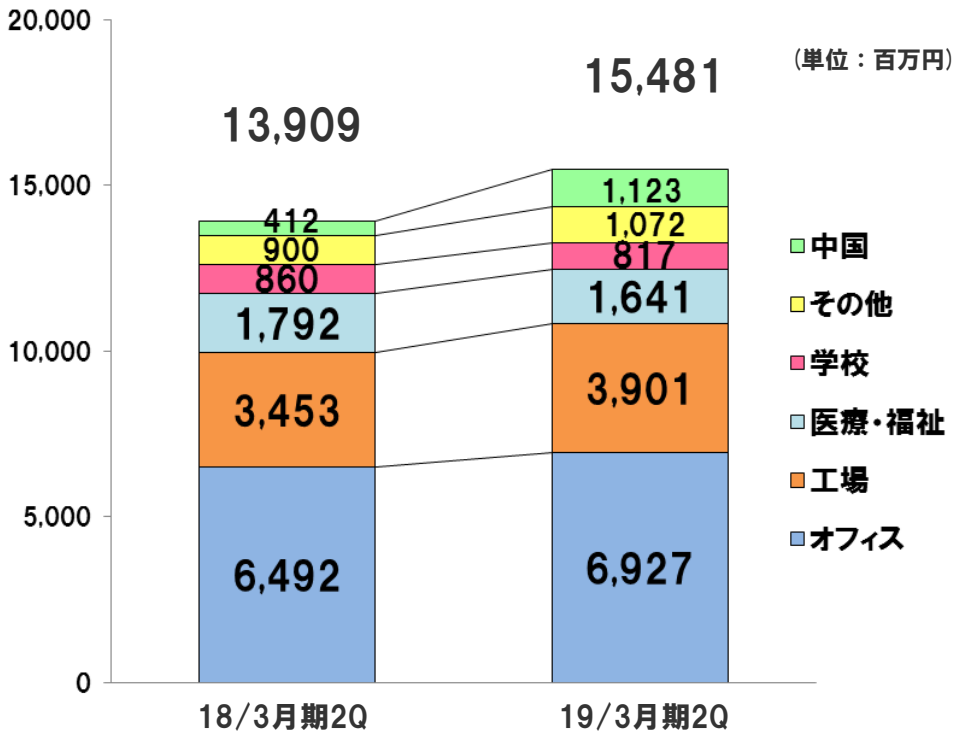


■営業利益　1億16百万円
（32百万円の減益）

【増益要因】
・国内販売数量の増加
・中国セグメント販売数量の増加
⇒5億51百万円の増益

【減益要因】
・売上原価の増加
・原材料コストの増加
・計画に基づく投資による販管費の増加
⇒5億83百万円の減益

市場セグメント別　売上高



（単位：百万円）

	18/3月期2Q	19/3月期2Q	前期比
オフィス	6,492	6,927	106.7%
工場	3,453	3,901	113.0%
医療・福祉	1,792	1,641	91.6%
学校	860	817	95.0%
その他	900	1,072	119.1%
中国	412	1,123	272.6%
合計	13,909	15,481	111.3%

■オフィス市場
・働き方改革などオフィス環境改善を狙いとしたオフィスビル移転の需要が増加
⇒売上高：69億27百万円
（前期比6.7%増加）

■工場市場
・設備投資の増加に伴うニーズに的確に対応
⇒売上高：39億1百万円
（前期比13.0%増加）

■中国
・市場に合わせた営業体制の見直し
・前期までに受注した物件の工事完了
⇒売上高：11億23百万円
（前期比172.6%増加）

■医療・福祉市場
・得意とする木製品で設計織込活動の強化
・新たな制度や指針に対して様子見の動き
⇒売上高：16億41百万円
（前期比8.4%減少）

■学校市場
・自治体や設計事務所への活動を積極的に実施
・新たな制度や指針に対して様子見の動き
⇒売上高：8億17百万円
（前期比5.0%減少）

貸借対照表

（単位：百万円）

	18/3月期	19/3月期2Q	増減
流動資産	21,967	20,325	△ 1,642
現金及び預金	8,220	9,036	816
受取手形及び売掛金	10,265	7,781	△ 2,483
商品及び製品	1,529	1,382	△ 147
原材料及び貯蔵品	1,368	1,221	△ 146
固定資産	14,393	13,888	△ 504
有形固定資産	10,217	9,980	△ 237
無形固定資産	429	374	△ 55
投資その他の資産	3,745	3,533	△ 212
資産合計	36,361	34,213	△ 2,148
流動負債	7,261	5,552	△ 1,708
買掛金	2,439	1,826	△ 613
短期借入金	546	369	△ 176
未払法人税等	632	257	△ 374
固定負債	6,458	6,329	△ 129
長期借入金	2,124	2,029	△ 95
負債合計	13,719	11,882	△ 1,837
純資産	22,641	22,331	△ 310
利益剰余金	8,438	8,286	△ 151
自己株式	△ 1,143	△ 1,142	1
その他有価証券評価差額金	204	95	△ 109
負債純資産合計	36,361	34,213	△ 2,148

■総資産
21億48百万円減少の342億13百万円

・受取手形及び売掛金が大きく減少したが、これは需要期に売り上げた債権の回収が進んだことによる

・設備投資実績　2億77百万円

・投資その他の資産、その他有価証券評価差額金は、政策保有株式の一部を売却したことにより減少

■自己資本比率
3.0ポイント増加の65.3%

キャッシュ・フロー

（単位：百万円）

	18/3月期2Q	19/3月期2Q	増減
営業キャッシュ・フロー	2,088	1,675	△ 413
投資キャッシュ・フロー	△ 302	△ 530	△ 228
フリーキャッシュ・フロー	1,786	1,145	△ 641
財務キャッシュ・フロー	△ 916	△ 491	425
現金及び現金同等物の四半期末残高	7,900	8,886	986

・営業キャッシュ・フローは、売上債権の減少、減価償却費、税金等調整前四半期純利益などによる増加があったものの、仕入債務の減少、法人税等の支払、投資有価証券売却益などによる減少により、4億13百万円の減少。

・フリーキャッシュ・フローは、6億41百万円の減少。

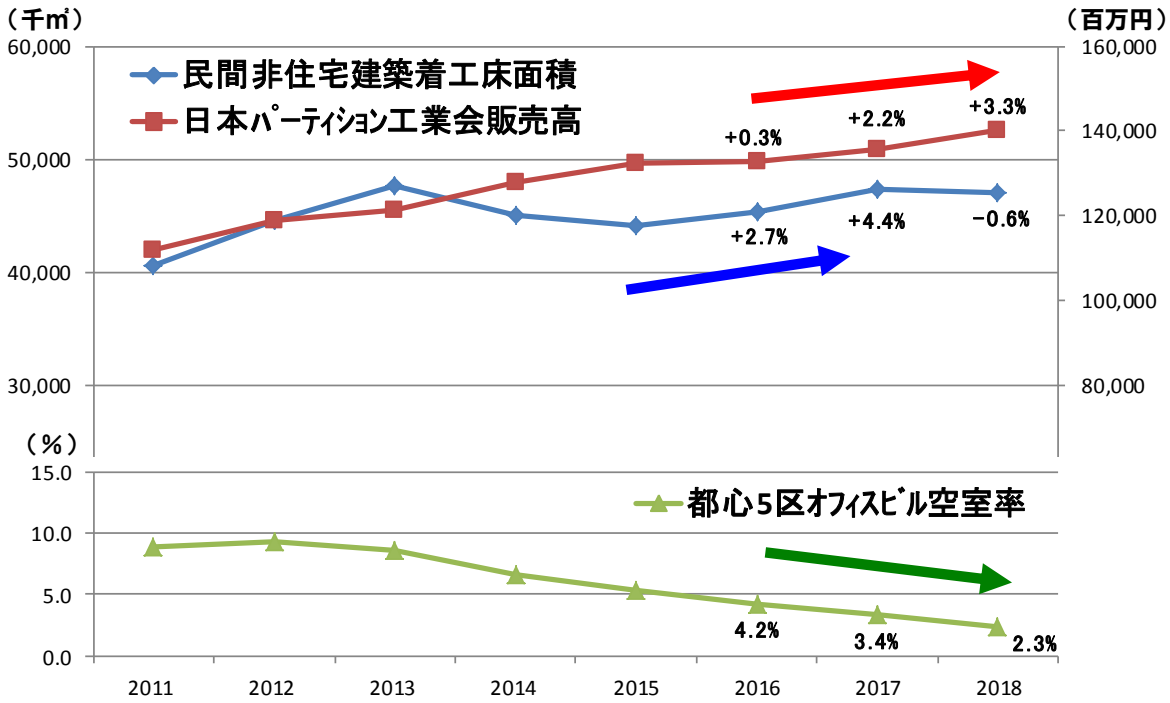
・財務キャッシュ・フローは、長期借入金の返済、配当金の支払などによる減少により、4億25百万円の減少。

・現金及び現金同等物の四半期末残高は、9億86百万円の増加。

・ネットキャッシュは、 5億63百万円増加の64億87百万円。

2019年3月期
連結業績の予想

パーティション市場の動向



日本パーティション工業会販売高	2011~2017年までは12月時点の年計、2018年は9月時点の年計
民間非住宅建築着工床面積	2011~2017年までは3月時点の年計、2018年は9月時点の年計
都心5区オフィスビル空室率	2011~2017年までは4月時点の実績、2018年は9月時点の実績

■主な指標
「民間非住宅建築着工床面積」
「日本パーティション工業会販売高」
「都心5区オフィスビル空室率」

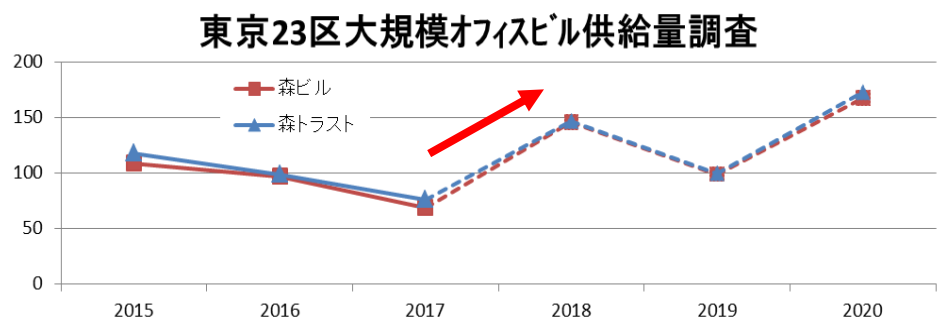
・民間非住宅建築着工床面積
　⇒2016年以降、増加傾向で推移

・都心5区オフィスビル空室率
　⇒2.3%まで低下

・工業会の販売高実績
　⇒3.3%の増加

■東京23区大規模オフィスビル供給量
2018年は増加の見込み

※パーティション需要としては増加傾向で推移すると予想。



【参考】

●民間非住宅建築着工床面積
http://www.mlit.go.jp/statistics/details/jutaku_list.html

●都心5区オフィスビル空室率
https://www.e-miki.com/market/tokyo/index.html

●日本パーティション工業会販売高
http://www.jmpa.info/jmpa/index.html

●東京23区大規模ｵﾌｨｽﾋﾞﾙ供給量調査
https://www.mori-trust.co.jp/pressrelease/2018/20180425.pdf
http://www.mori.co.jp/img/article/180427.pdf

連結業績予想

（単位：百万円）

	18/3月期				19/3月期				
	上期	下期	通期	売上比	上期	下期	通期	売上比	前期比
売上高	13,909	18,478	32,387	100.0%	15,481	19,319	34,800	100.0%	107.4%
売上原価	8,386	11,002	19,388	59.9%	9,669	10,451	20,120	57.8%	103.8%
売上総利益	5,523	7,476	12,999	40.1%	5,812	8,868	14,680	42.2%	112.9%
販売管理費	5,374	5,923	11,298	34.9%	5,695	6,885	12,580	36.1%	111.3%
営業利益	148	1,552	1,700	5.2%	116	1,984	2,100	6.0%	123.5%
経常利益	124	1,608	1,732	5.3%	73	2,067	2,140	6.1%	123.6%
親会社株主に帰属する当期純利益	△ 13	942	929	2.9%	67	1,273	1,340	3.9%	144.1%
1株当たり配当金	23円	24円	47円		25円	25円	50円		102.2%
設備投資額	260	627	887		277	857	1,134		127.8%
減価償却費	467	492	959		466	480	946		98.6%

・2018年4月27日発表の連結業績予想に対して変更なし。

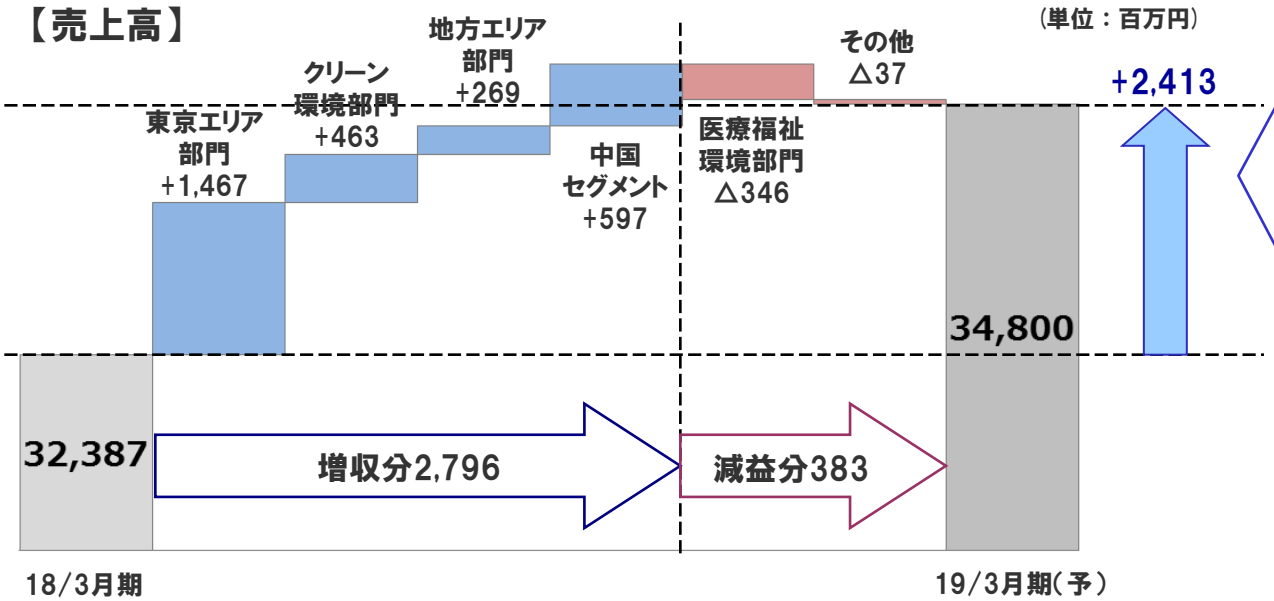
・売上高は前期比7.4%増加の348億円、営業利益は前期比23.5%増加の21億円を予想。

・１株当たり配当金は、年間で3円増配の50円を予定。

・設備投資は、下期8億57百万円を計画し、通期で11億34百万円を計画。

売上高・営業利益の増減要因

【売上高】

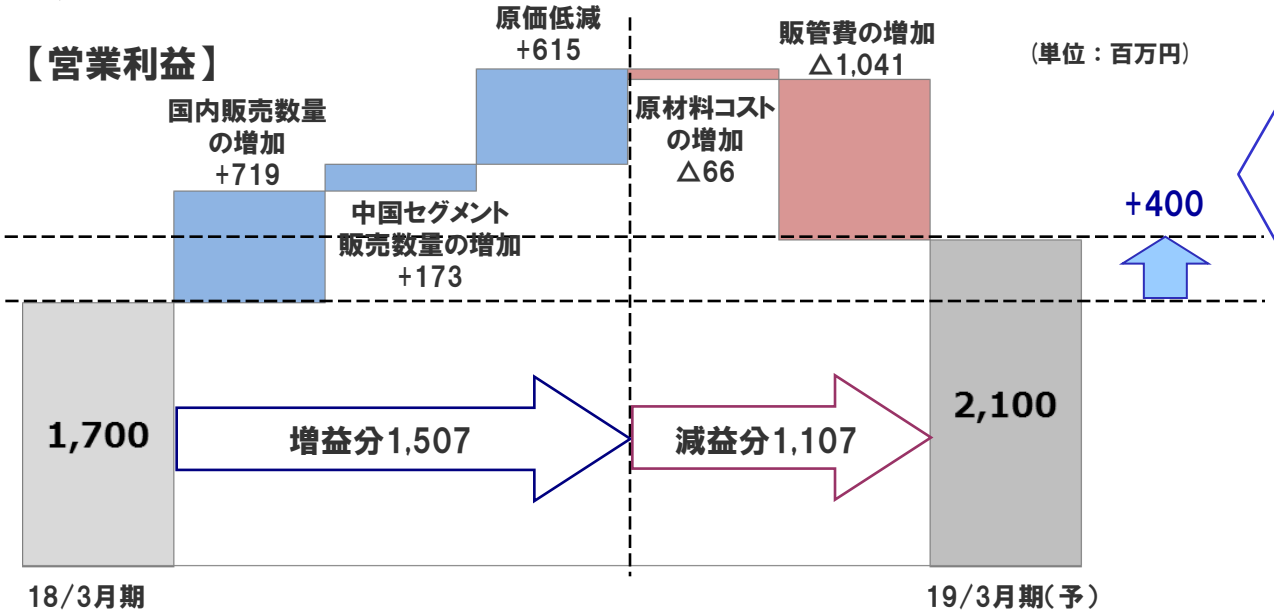


■売上高　348億円
（24億13百万円増収を計画）

【増収要因】
・東京エリア部門ではお客様接点強化
・中国セグメントでは市場に合わせた営業体制の見直し
⇒27億96百万円の増収

【減収要因】
・医療福祉環境部門では工事を様子見する影響を考慮
⇒3億83百万円の減収

【営業利益】



■営業利益　21億円
（4億円の増益を計画）

【増益要因】
・国内販売数量の増加
・中国セグメント販売数量の増加
・合理化活動による原価低減
⇒15億7百万円の増益

【減益要因】
・労務費増　4億97百万円
・経費増　5億44百万円
⇒11億7百万円の減益

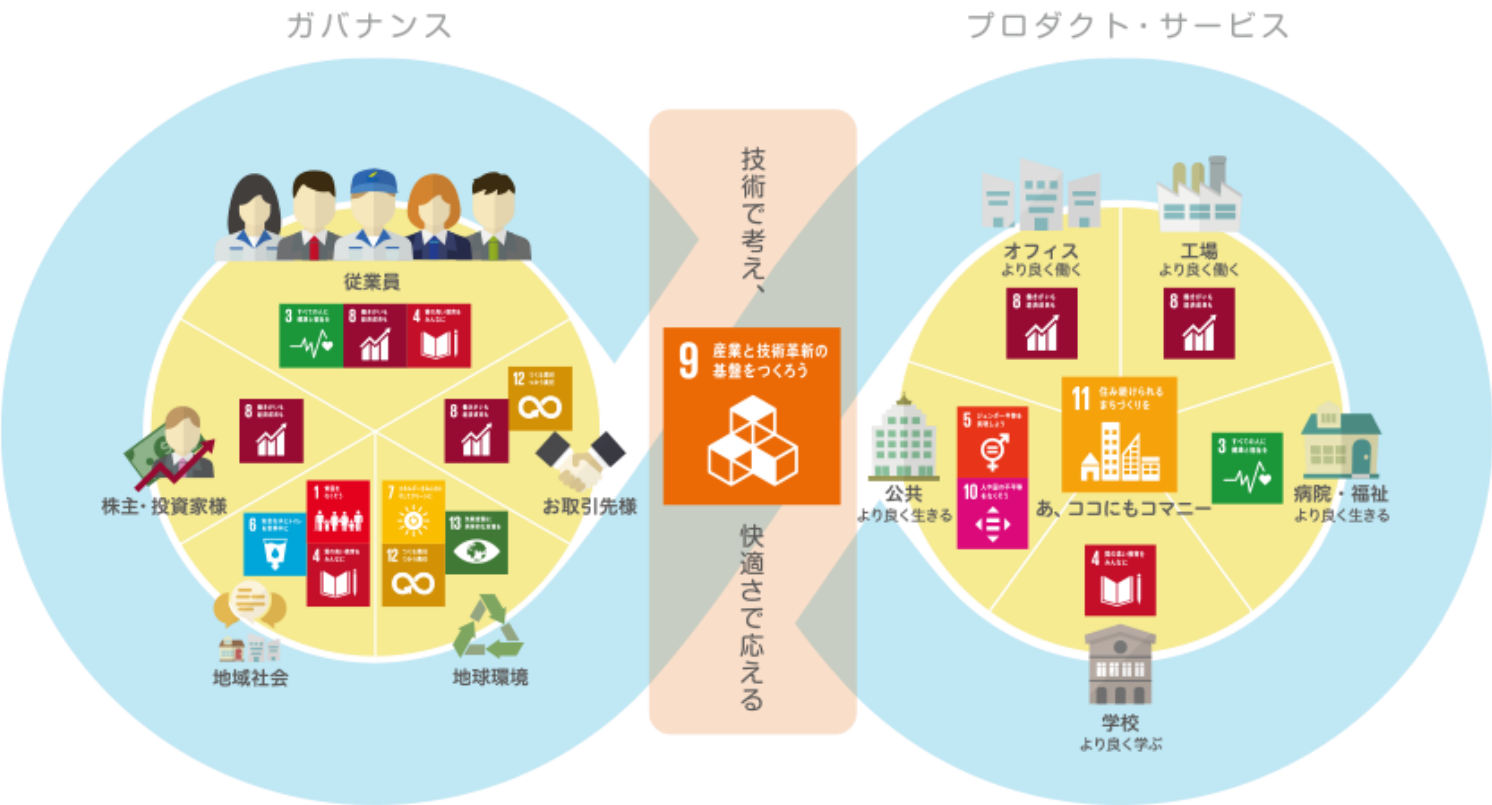
重点施策の進捗

コマニーSDGs ∞（メビウス）モデル

Seeking to strengthen universal peace in larger freedom

- 大きな自由における普遍的な平和の強化を追求 -

全従業員の物心両面の幸福を追求すると同時に、人類、社会の進歩発展に貢献する



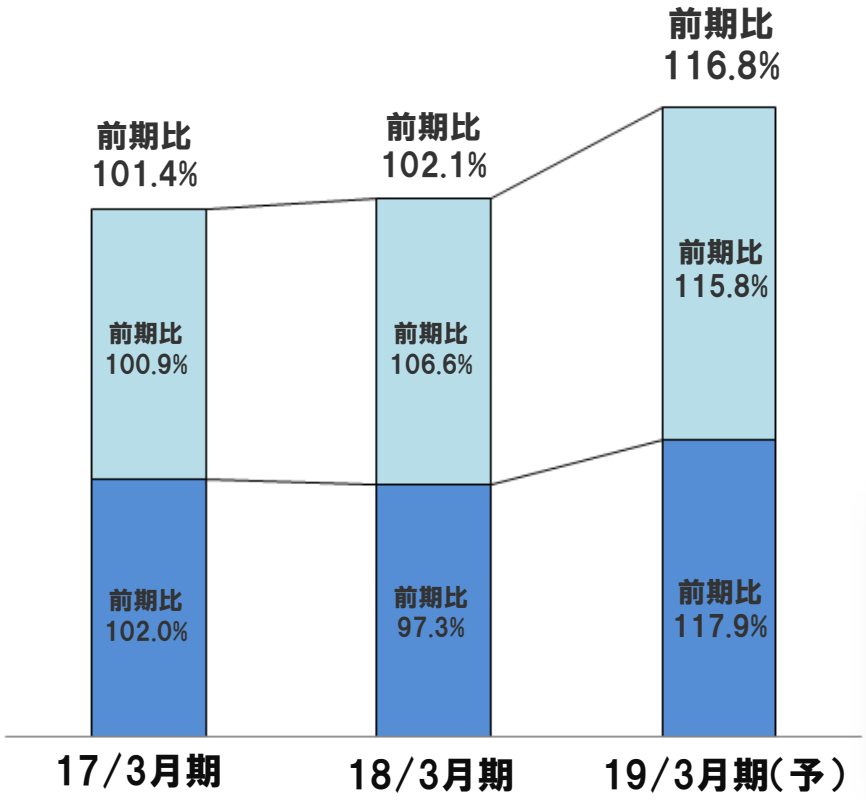
コマニー
SDGs ∞ Model
SDGsメビウスモデル

SDGsの目標を
経営・事業活動とリンク

- **ソーシャルインパクトの大きい事業展開**
- **誰一人取り残さず幸福にする経営**
- **より強いガバナンス体制の構築**

重点施策①　東京エリアの営業活動

【東京エリア 売上高計画】



■上期
・働き方改革などに伴うオフィス環境リニューアルや移転の需要に対応

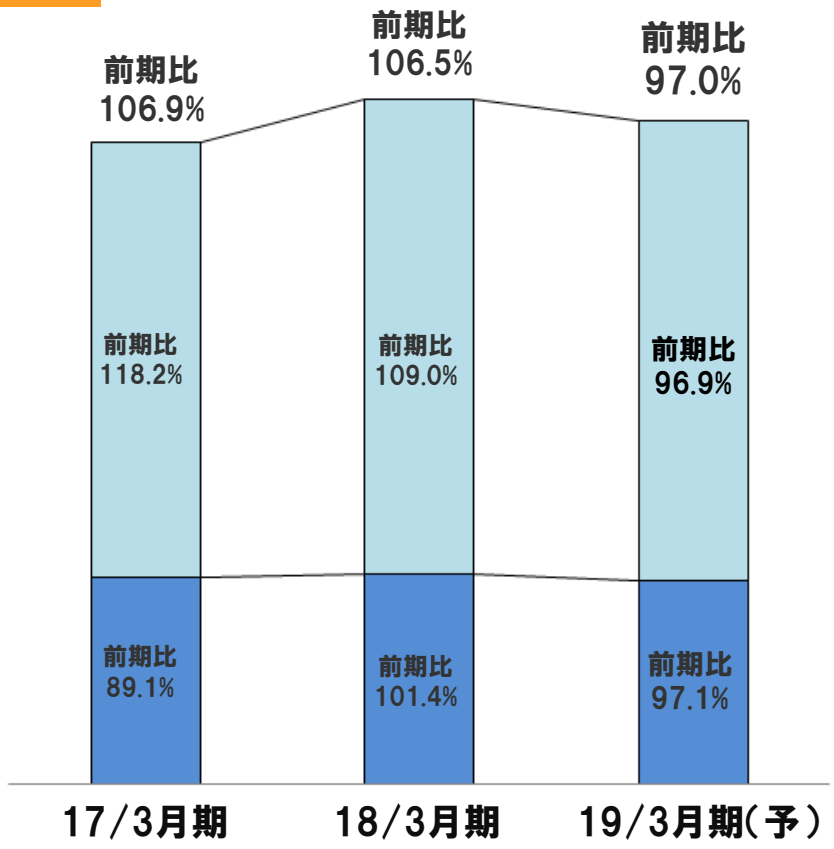
■下期
・シェアオフィスなど、多様化するお客様の要望に対応
・9月に発売したガラスパーティション「KOUSHI」の提案や既存商品のオプションを充実
・東京オフィスをラボ（実験室）としてリニューアルし、生産性向上と社員自らの体験に基づくお客様提案、新商品開発につなげる

「ゆるく仕切る」デザインパーティション
『KOUSHI』

東京オフィスリニューアル

重点施策②　医療・福祉施設向け営業活動

【医療・福祉 売上高計画】



■上期
・全国への販売促進と設計織込活動の強化
・介護医療院など新たな制度に対して様子見

■下期
・全国での拡販強化を継続
・利用者の立場に立った提案や設計織込活動
・介護医療院など新たな制度に対する提案や新商品の開発

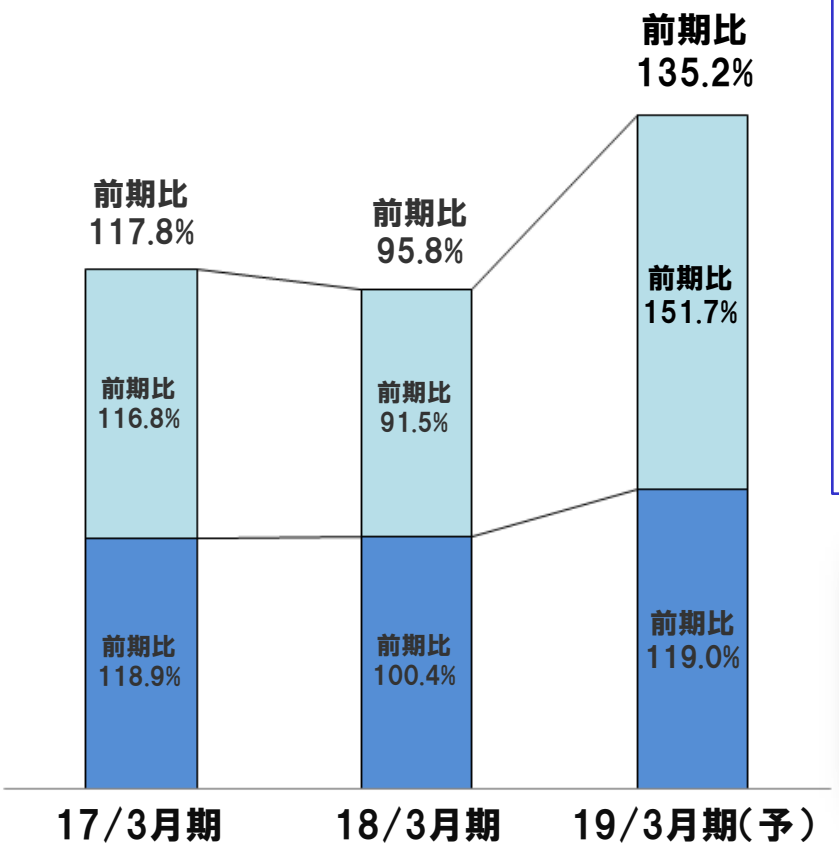
※下期も工事が様子見される動きを予想

「やさしいドア」

「ベッド間間仕切」

重点施策③　市場開発機能の強化

【設計織込高 計画】



■上期
・ユニバーサルデザインや高耐震間仕切など、当社の強みを活かした設計織込活動を展開

■下期
・設計織込活動の強化と案件の囲い込み

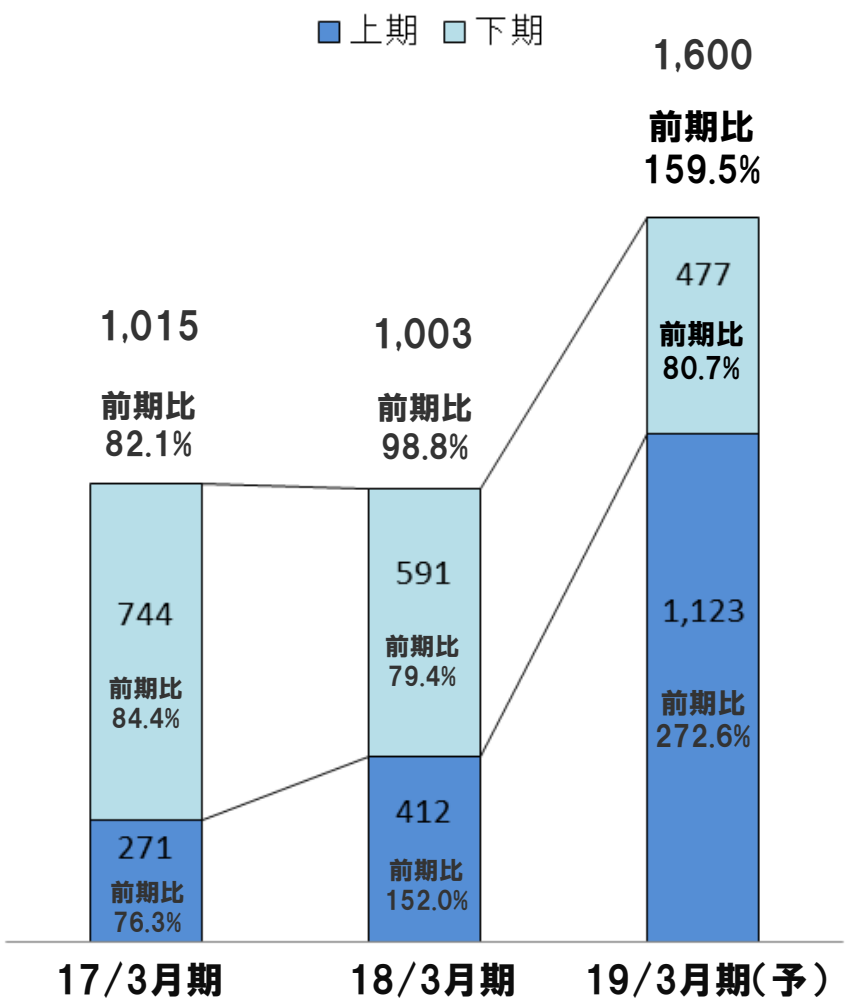
・学校市場への活動強化
文部科学省が推進する「学校施設の長寿命化改修」に沿った営業活動
（後付間仕切の普及促進と設計織込活動）

ユニバーサルデザイン折り戸
「Dear-D」

高耐震間仕切
「シンクロン」

重点施策④　海外事業展開

【中国　国内売上高】



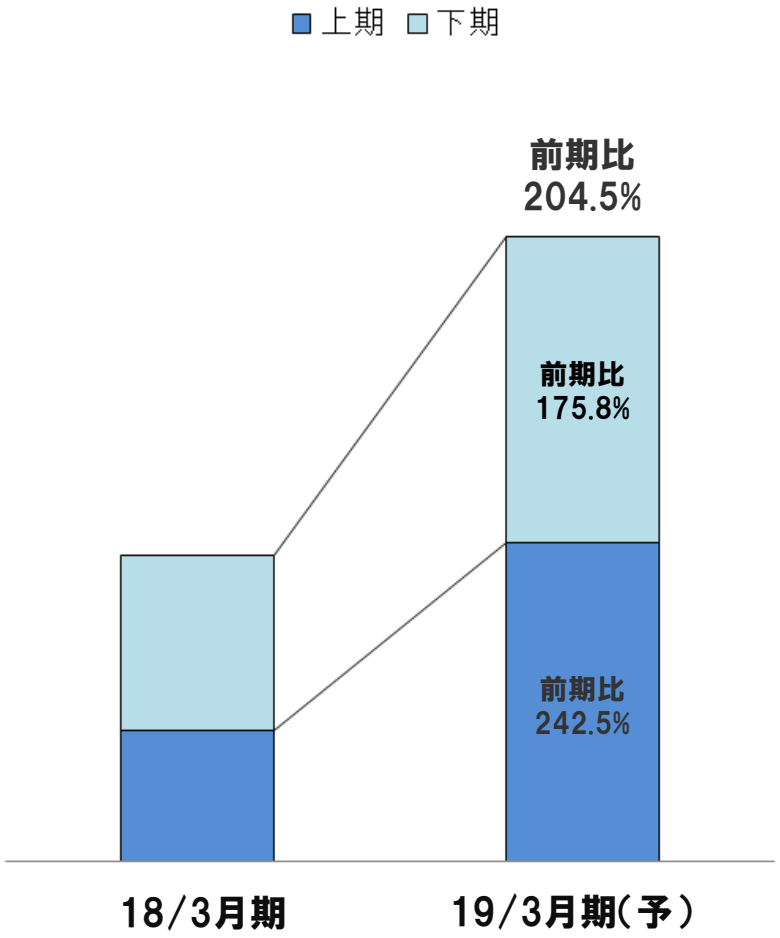
■上期
・市場に合わせた営業体制の見直しによる提案力向上への取り組み
・前期までに受注した物件の工事完了

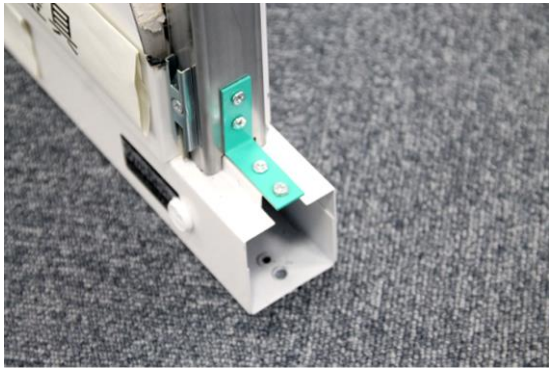
■下期
・提案力の向上
・ターゲット市場（コンピュータールーム、病院）に対し主力となるパネル製品の販売
・物件毎の収益管理を継続強化、合理化活動の推進

中国工場の様子

重点施策⑤　高付加価値商品

【高耐震間仕切『シンクロン』 売上高】

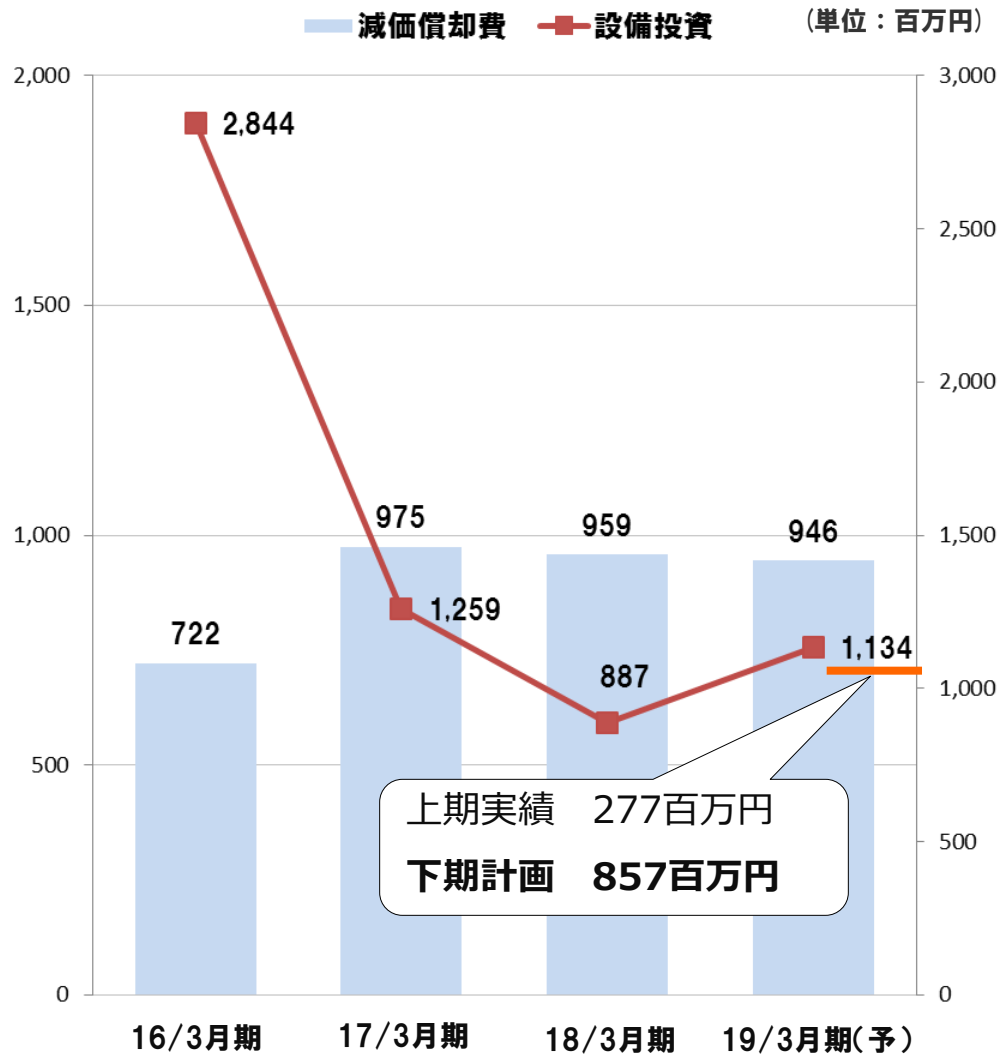




■上期
既存商品への耐震機能付加というシンクロンの強みを活かし、空間に合わせた柔軟な耐震間仕切の提案が成果に繋がる。

■下期
企業のBCP対策など、震災に対する空間の安全性確保に貢献するため、商品ラインナップの強化を図る。

設備投資計画



■下期投資計画：8億57百万円を計画

【内訳】

生産設備	3億97百万円
情報システム	3億35百万円
その他	1億18百万円
国内子会社	7百万円

【主な内容】

生産設備
　合理化、老朽化対応

情報システム
　生産性向上を狙いとしたシステム構築、インフラ増強

国内子会社
　生産設備合理化、老朽化対応

■減価償却費

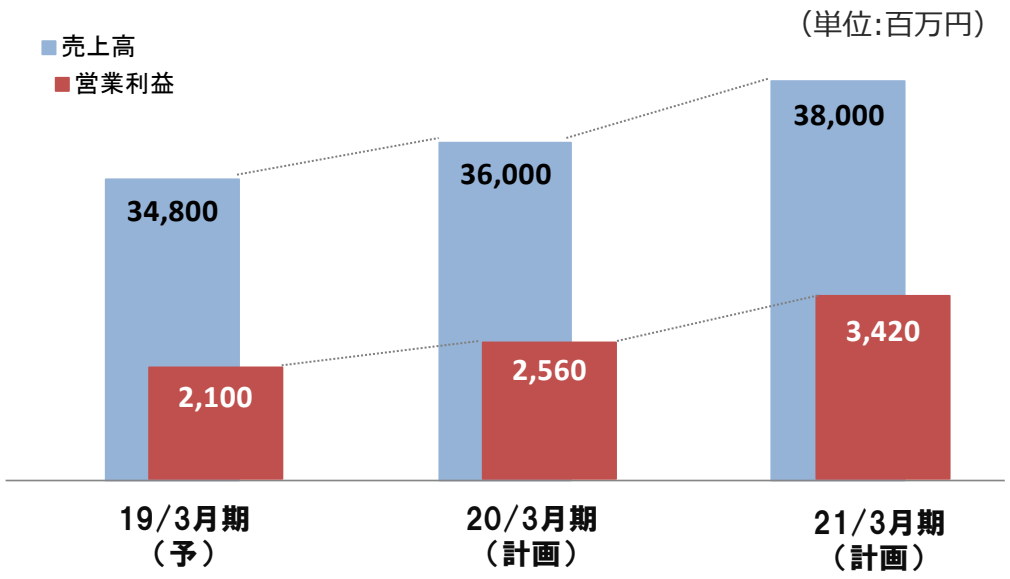
ほぼ前期並みの計画

中期経営計画

中期経営計画

（単位：百万円）

	中期経営計画								
	19/3月期			20/3月期			21/3月期		
		前期差	前期比		前期差	前期比		前期差	前期比
売上高	34,800	2,412	107.4%	36,000	1,200	103.4%	38,000	2,000	105.6%
営業利益	2,100	400	123.5%	2,560	460	121.9%	3,420	860	133.6%
営業利益率	6.0%	0.8pt	-	7.1%	1.1pt	-	9.0%	1.9pt	-
経常利益	2,140	408	123.6%	2,600	460	121.5%	3,460	860	133.1%
親会社株主に帰属する当期純利益	1,340	411	144.1%	1,630	290	121.6%	2,170	540	133.1%



今期パーティション市場動向については上向きの状況。
2019年3月期の上期実績について、売上高、営業利益は計画を達成したが、利益率は前期に及ばず改善が必要。
⇒2021年3月期の計画達成のためにも、合理化、生産性向上の取り組み強化がポイント

中期経営目標達成のための基本戦略（「営業面」「収益面」「人財育成・働き方」「社会貢献」「健全性」）に基づく重点施策を確実に遂行し、全社一丸となって取り組む。

トピックス

トピックス①　SDGsビジネスアワード受賞

2018年11月に広島で実施された2018国際平和のための世界経済人会議にて開催された「広島SDGsビジネスコンテスト2018」において、当社が優秀賞を受賞しました。

『災害時、二次被害ゼロの社会をつくる』という未来像を描き、その実現のために『キレイな避難所トイレ環境』をつくり出すことが健康二次被害の低減に大きく寄与する可能性があることを示し、提案したビジネスアイデアで優秀賞を受賞しました。

同時に表彰が行われた、SDGsに関するビジネスの推進において積極的に取り組んでいる個人を表彰する『SDGsビジネスアワード グローバルイノベーター賞』の表彰もあり、受賞者2名のうち１名として、当社常務執行役員の塚本直之が受賞いたしました。

トピックス②　納入事例

お客様に常に魅力ある商品を提供し続けております

●株式会社ルーセントスクエア様

2018年5月に移転された、システム会社『株式会社ルーセントスクエア様』より、「意匠性の高いオフィスにしたい。来客者が目にするエントランス付近はガラスを使用し、解放感を出してほしい。」とのご要望をうけ、全国初の「SUP」をご採用いただきました。
SUPは高耐震間仕切として専用設計されたパーティションであり、意匠性と安全性でお客様に貢献することができました。

商品　　：SUP（エスユーピー）
納入場所：北海道札幌市

●Business-Airport Shimbashi
（ビジネスエアポート新橋様）

2018年8月にリニューアルされた、会員制レンタルオフィス『ビジネスエアポート新橋様』では、「ゆるく仕切る」をコンセプトとした「KOUSHI」をご採用いただきました。ガラスの部分をフレームの組み合わせで複雑なパターンをつくり出し、これまでの間仕切では表現できなかった空間創りにご協力させていただきました。

商品　　：KOUSHI（コウシ）
納入場所：東京都港区

参考資料

●社是

我等の精神は人道と友愛である

●経営の理念

全従業員の物心両面の幸福（しあわせ）を追求すると同時に、
人類、社会の進歩発展に貢献する

会社概要

■商　　号　　コマニー株式会社　ＣＯＭＡＮＹ　ＩＮＣ．
■本　　社　　石川県小松市工業団地一丁目93番地
■設　　立　　1961年（昭和36年）8月18日
■資　本　金　　71億21百万円
■従業員数　　（連結）1,492名　（単体）1,081名
■事業内容　　パーティション（間仕切り）の開発、設計、製造、販売および施工
ならびにパーティション関連の内装工事、建具工事
建築工事業　　国土交通大臣許可（特-26）第3669号
内装仕上工事業　　国土交通大臣許可（般-26）第3669号
建具工事業　　国土交通大臣許可（般-26）第3669号
■株式市場　　東証二部　名証二部　　証券コード：7945
■株式総数　　9,924,075株
■取引銀行　　北陸銀行、北國銀行、みずほ銀行、三井住友銀行、
三菱UFJ銀行、日本政策投資銀行

（2018年9月30日現在）

沿革

1961年　小松キャビネット株式会社設立
1970年　社名を株式会社コマツパーティション工業に変更
1980年　パーティション業界 売上高第1位達成　以降、業界のリーディングカンパニー
1984年　社名をコマニー株式会社に変更
1985年　デミング賞実施賞中小企業賞を受賞
1989年　株式を名古屋証券取引所市場第二部に上場
1995年　独立採算制度を導入（アメーバ経営導入）
1996年　1996年度ＴＰＭ優秀賞第一類を受賞
1996年　格満林国際貿易(上海)有限公司を設立
1997年　クラスター株式会社を設立
　　格満林(南京)実業有限公司を設立
1998年　格満林(南京)装飾建材有限公司を設立
1999年　1999年度ＴＰＭ優秀継続賞第一類を受賞
　　ISO 9001認証取得
2001年　ISO 14001認証取得
2002年　ISO9001認証を2000年版に更新
2003年　子会社格満林(南京)実業有限公司がISO14001:1996認証を取得
2005年　ISO14001認証を2004年版に更新
2011年　南京捷林格建材有限公司を子会社化
2012年　格満林(南京)新型建材科技有限公司を設立
2014年　格満林(南京)実業有限公司を売却
2015年　東京証券取引所市場第二部に上場
2016年　コマニー株式会社創立55周年
2017年　ISO9001およびISO14001認証を2015年版に更新
2018年　「コマニーSDGs宣言」を表明

JAB
QMS,EMS
Accreditations
R014,RE012

JMA
REGISTRATION CENTER
QMS,EMS
JMAQA-499
JMAQA-E248

事業内容

住宅

オフィス

公共施設

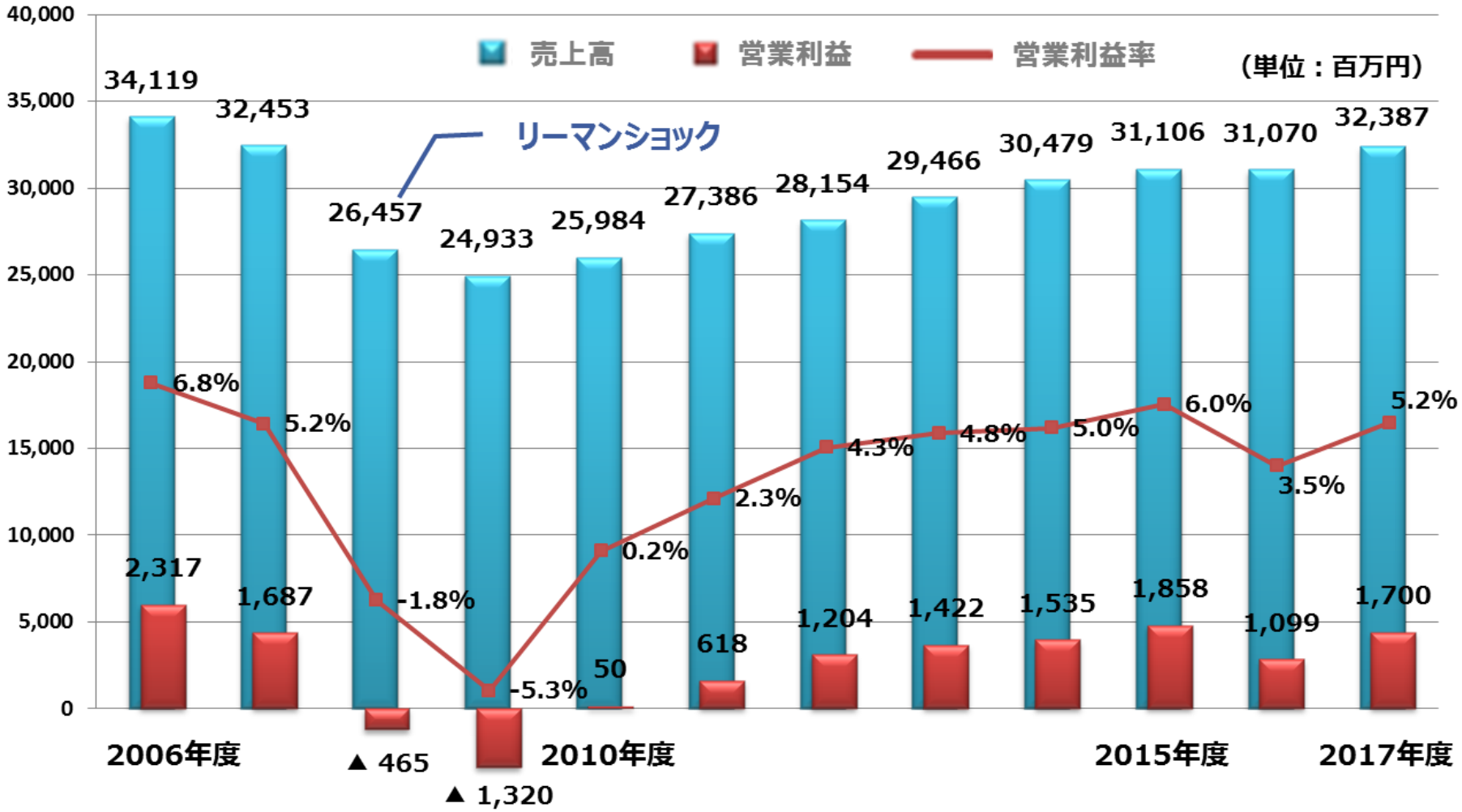
パーティションのトップメーカーとして
お客様のそばにも常に当社の商品があり、
誰もが心地よく感じるような空間を提供する

教育施設

医療・福祉施設

工場

連結業績の推移（売上高・営業利益）



あ、ココにもコマニー

＜ご案内＞
本資料に記載された見解、見通し、ならびに予測等は資料作成時点での弊社の判断であります。
その情報の正確性を保障するものではありません。市場環境等の様々な要因により、今後の業績は
本資料の内容と異なるものとなる可能性があります。ご承知おきのほど、お願い申し上げます。